

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習
科目名	専門演習（政治学）	科目ナンバー	JASEM3303
英語表記	Seminar on Political Science	担当教員	稗田 健志
単位数	4		
科目の主題			
実証政治分析入門			
授業の到達目標			
学問的に意味のある問いを見つけ、それに対する仮説を立て、適切な方法でその仮説を検証することができるようになる。			
授業内容・授業計画			
<p>文部科学省「平成 24 年度全国学力・学習状況調査」により、朝食を食べる小中学生のほうが食べない学生よりも学力調査の点数が高い傾向にあることが分かった。そして、このデータに基づき、農林水産省はその HP で「朝ごはんを勉強・仕事の集中力アップ」を勧めている。もし、あなたがこの論理展開に何の疑問も持たなかったとしたら、この演習の履修を是非検討して欲しい。本演習の最大の目的は、履修生がこのような怪しげな因果関係の主張に適切な「突っ込み」を入れられるようになることだからである。また、本演習では演習論文（ゼミ論）作成を通じて、履修生が自ら問いを設定し、その問いに適切な解を与える作業を行えるようになることも目指す。担当者の専攻上、広義の政治現象を題材としてとりあげるが、そこで用いられる科学的推論の方法は政治学を超えて広く応用が可能であろう。</p> <p>前期は、毎回担当者を設定して文献の概要をレジュメにて報告してもらい、後期は、演習参加者各自のゼミ論作成が中心となる。</p>			
事前・事後学習の内容			
<p>事前学習：課題文献を読み込み、疑問点・論点を明らかにしておく。</p> <p>事後学習：演習の議論を踏まえ、科学的推論方法の理解の定着を図る。</p>			
評価方法			
成績評価は、文献報告、ゼミ論報告、および議論への貢献度に基づいて行う。			
受講生へのコメント			
政治学の題材を扱うことが多くなるが、政治系科目を履修済であることを必ずしも前提とはしない。むしろ、2017 年度前期開講の「法学政治学計量分析」を並行履修すると、より理解が深まるだろう。			
教材			
<p>高根正昭（1979）『創造の方法学』講談社現代新書。</p> <p>久米郁男（2013）『原因を推論する』有斐閣。</p> <p>他、論文多数。</p>			
その他			
本演習では履修者全員に 1 万字程度のゼミ論執筆を課す。そのため、履修者は 2017 年度後期に「演習論文」の単位の登録も必須とする。論文が「専門演習」の単位の認定に必要な程度の水準に達していれば、「演習論文」の単位も認定する。			
履修可能最低年次			
3 年次生以上			